教育　おおらか・さわやか・きわやかな大崎の教育

問 教育委員会管理課　☎476-1111(410)

◆地域が育む『かごしまの教育』県民週間

11月１日～７日の『地域が育む『かごしまの教育』県民週間』では、たくさんの町民の皆様に学校を参観していただきありがとうございました。

期間中、各学校では、道徳の一斉授業参観をはじめ、授業参観や学習発表会、祖父母参観、グラウンドゴルフ、秋祭りなどの世代間交流なども行われ、子どもたちも来校してくださった皆様と楽しく交流することができました。参加してくださった町民の皆様にも、普段は見ることのできない子どもたちの授業の様子や先生方の頑張りを見ていただくことができました。

来年度も同じ時期に県民週間が行われますので、お誘い合わせの上、ぜひ学校にお越しください。

世代間交流（グラウンドゴルフ）

学校自由参観

まなびの窓　おしえの庭　『人の役に立ちたい。』

No.46　中沖小学校　校長　三浦　義次

私が本を読み始めたのは、小学校4年生位の頃だったと思う。学校の図書室で借りた本の題名は、確か『電光Ｚの謎』という推理小説だった気がする。それから、推理小説にはまり、明智小五郎やシャーロック・ホームズのシリーズへ、次は、ＳＦ小説、そして、伝記や歴史小説と、読む本の幅も広がっていった。

また、我が家には姉たちのために買ってあったのだろう少年少女文学全集があり、小公女や小公子といったタイトルを見て興味があったものだけを選んで読んでいた。そんな中に『ドリトル先生の航海記』があり、動物の言葉がわかったら楽しいだろうなと印象に残っていた。

やがて教員になり、初任校の図書室でこの本を見つけ懐かしく読み返してみたとき、ドリトル先生は全12巻で『航海記』はシリーズの第２巻ということを初めて知り、図書室にあった第１巻『ドリトル先生アフリカ行き』から９巻目『ドリトル先生月から帰る』を、２校目でようやく第12巻『ドリトル先生の楽しい家』まで読み通すことができ満足したのを覚えている。

さて、学校では、読書を子どもたちに奨励している。本校の子どもたちも、図書室でたくさんの本を借りて読んでいる。１年間に100冊以上借りている子どもがほとんどで、素晴らしいことだとうれしく思っている。

しかし、気になることが一つだけある。それは、読む本の文字の量である。低学年向けと高学年向けでは、文字の量が違う。高学年になると100冊読むのは、きっと大変だと思う。学年が上がったら、その学年にあった本も選んで読んで欲しい。読んだ本の数を目標とするのではなく、様々な本を読み、興味の持てる本を探して、じっくりと読んで欲しいと思っている。

読書には、語彙（い）力が身につく、集中力が高まる、感受性が豊かになるなどの効果が言われているが、それよりも本の世界にじっくりと浸る、そんな時間をもってもらいたい。